

日本共産党

ハッキリ提起

# 基地撤去を

アメリカ政府

鳩山首相に

メア国務省日本部長(右手前)から2人目と会談する志位委員長ら(左側) 17日、ワシントン



**「対米外交 共産党を参考にしは」**

「(志位・ルース大使会談は)議論の中で何かが生まれてくるものもあると感じさせる会談だった」(鳩山首相が)『トラス・ミー(私を信じて)』と言うだけでは、米政府に何も伝わらないのではないか(朝日)4月22日付)

**米国も「日本を 守らない」と証言**

- (沖縄の海兵隊は)日本防衛には充てられない(ワインバーガー米国防長官、1982年)
- (沖縄の海兵隊の役割は)地球規模での対テロ戦争への貢献(第3回海兵遠征軍資料)

**「海兵隊=抑止力」は幻想** 鳩山政権が「基地たらい回し」の口実になっているのが、「沖縄の海兵隊は日本を守る抑止力」というもの。しかし海兵隊は、先制攻撃の“殴り込み部隊”。米国関係者も「日本を守るものでない」と証言しています。

**普天間「移設」沖縄県内、徳之島に**

鳩山内閣は、普天間基地を沖縄県内に「移設」、鹿児島県徳之島に一部移転する方針です。昨年総選挙での「(移設は)国外、最低でも県外」の公約を破り、沖縄県民、

徳之島住民の総意を踏みにじるものです。

鳩山首相は、“民主党の公約でなく、自分の発言だ”と言っていますが、党首が選挙のとき公の場で言ったことが選挙の公約でなければ、何を信じればよいのか。二重三重に国民を裏切るのは許せません。



普天間基地の「県外・国外への移設」という公約を投げ捨て迷走する民主党政権。背景には、「アメリカいいなり」という古い政治から抜け出す立場を持っていないことが

あります。日本共産党は、日米安保条約をやめ、対等・平等の日米関係をきずく立場から、基地の無条件撤去を求め、日米両政府にもハッキリものを言っています。

## 核兵器廃絶・基地撤去へ 米政府と会談

日本共産党の志位和夫委員長は米国務省内でケビン・メア同省日本部長らと会談(5月7日)。核兵器問題と日米関係についての立場を伝えました。普天間問題では「無条件撤去しか道はない」と強調。米側は「現行案」が良いとの立場を示しましたが、「見解は違っても意見交換は有益」と語りました。志位委員長はこれに先立ち、ルース駐日大使とも会談しました(4月21日)。

## 無条件撤去の立場で交渉を 鳩山首相に歴史的決断迫る

志位委員長は、鳩山首相と会談(4月23日)。沖縄の施政権返還など、安保条約の下でも米国を動かした経験があることを示し、「歴史的な決断を行うべきだ」と迫りました。鳩山首相は、「共産党のようなすっきりした答えはつけない。ぜひ(そのことを)アメリカで言ってきて下さい」と答えました。

ひどすぎる!!  
鳩山首相 公約違反